

創建

そうこん

2007・6・28 VOL.42 NO.1 (通巻122号)

巻頭言／若井正一・1
 卒業研究テーマ・2～3
 教養講座講演会報告・4
 新任の先生・5
 ネットワークOB&OG®／新任紹介・6～7
 教室ニュース／日本建築学会東北支部研究報告会・7
 教職員名簿・8

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

キャンパスの桜が例年より早めに開花した4月初旬に、新入生を歓迎する学外研修旅行に同行した。

恒例となっている年度初めの学校行事であるが、建築学科の新入生200余名という大勢の学生諸君を引率するのは久しぶりのことで、道中の無事を祈念する一泊2日の旅であった。

当日は、5台の大型バスに分乗して、やや花冷えのする会津路を猪苗代湖、天鏡閣、会津鶴ヶ城、大内宿、さざえ堂などの主な観光スポットを2日間にわたって見学した。初日の研修会は、宿泊先の芦ノ牧温泉大川荘で開催された。

その研修会で「住まいの夢と建築の資格職能」と題する約1時間の話をしたが、彼らのフレッシュな眼の輝きがとても印象的であった。最初は緊張していた新入生同士であったが、夕食時には楽しそうな笑顔が多く見られるようになった。畳敷きの大広間に、端が見えなくなるほどお膳が並べられた夕食のお座敷は、まさに壮観であった。本来なら、お酒で乾杯する雰囲気の間であったが、ノンアルコールの「会津の名水！」で盛大に乾杯を行った。遠からず、本物の酒を酌み交わしながら、熱く建築論を語り合う日が来るであろう。2日間の研修旅行は、幸い無事に終了して新学期がスタートしたが、新入生の諸君には、建築に対して期待や憧れを持って入学した初心を忘れずに、大きな夢に向かって自分探しの道を邁進して欲しい。

さて、本年度第1回教養講座は、日本を代表する有名建築家の一人である「伊東豊雄」氏であった。

その講演に先立って、同氏のプロフィールを私に紹介して欲しいと急遽依頼された。実は、伊東氏と私が会うのは、今回が初めてではない。それは、かなり前のことになるが、私が他大学に国内留学をしていた時

のことである。ある日の午後、研究室のベテラン技官のO女史から「非常勤の先生と一緒にお茶でも・・・！」と誘われた。

その時に紹介されたのが、伊東氏であった。すでに同氏は、著名な建築家であったが、とても紳士的で物静かな先生というのが、私の第一印象であった。その後、伊東先生とは、仙台メディアテークのシンポジウムや学協会の催事などで、会場からお見かけすることがあっても、直接お会いするのは、今回が2度目のことであった。

講演前に、挨拶と打合せの関係で、少しばかり雑談をする時間があった。伊東氏が真摯に話をする態度は、初対面の時と少しも変わっていなかった。

いちごいちえ 一期一会

若井正一

た。そこで、国外のプロジェクトなどの関係で海外に出張することが多く、時々ゴルフで私の郷里に遊びに来ていることなどを知った。伊東氏の教養講座の様子は、本学部のホームページの中にも詳しく掲載されている。

後日、聴講した学生諸君の感想文を読む機会があったが、伊東氏の意欲的な創作活動に、少なからず強い感銘を受けたようであった。

4月から、大学院の専攻主任に加えて学科主任を拝命することになり、校務に追われる毎日であるが、約3ヶ月が過ぎてやっと週末を利用して上京する機会ができた。その主な目的は、東京国立博物館で特別展示されたレオナルド・ダ・ヴィンチの絵画「受胎告知」を観ることであつた。

た。残り少ない会期末に出掛けたこともあって、会場は超満員で、なんと入場まで約1時間待ちの行列であった。これぞ「一期一会」と意を決して最後尾に並んだが、「受胎告知」を鑑賞できたのは、わずか数分間であった。今から約500年も前の作品とは思えないほど色が鮮やかで、久しぶりに胸の高まりを感じた。

なお、レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画が日本で展示されるのは、約30年前の「モナ・リザ」以来のことで、日本中が「モナ・リザ」ブームに沸いたことを思い出す。

現在、その「モナ・リザ」は、パリのルーブル美術館の中にあり、今回の「受胎告知」は、イタリアのフィレンツェにあるウフィツィ美術館にまもなく返される。

ところで「一期一会」は、茶会などにおいて、亭主が客人をもてなす時の心得を表す言葉であるといわれる。私は、この言葉を単調になりがちな自己のマンネリズムを戒めるために、日々の行動規範としているが、その実践は難しい。

大学を舞台とした若い学生諸君との交流は、まさに「一期一会」の世界である。恥ずかしそうに挨拶をしていた入学時の幼い顔立ちは、いつしか凛々しい大人の顔になり、気が付くと別れの杯を交わすようになる。特に、卒研究生や大学院生になると、身近に話をする機会が増えて、彼らの意外な一面を知ることも少なくない。我が家のパーティでボトル1本を空にした酒豪の女子学生、カンツォーネを原語で歌った学生、留年してゲームに興じながらもキャリアに合格した学生、女子アナになった学生など、数えあげればきりが無い。

彼らには、厳しい人生の荒波を乗り越えて、幸せになって欲しい、と願うばかりである。

(主任教授)

卒業研究テーマ一覧

下記の研究テーマは、平成20年度卒業研究に向けた概要です。研究内容の詳細は、各自が希望する卒業研究の担当教員に直接たずねてください。なお、この一覧は、平成19年度「建築ゼミナール」着手のための参考資料です。

構造・材料系

■構造

倉田光春 教授〔論文〕

ブントラ S. G. 准教授〔論文〕

- 知的構造フォルムに関する研究
自然界の進化アルゴリズムによって出現するかたちとつよさの神秘さを自然観察あるいは経験則に基づく感覚的・実験的構造学で考察し、コンピュータシミュレーションによる検証を行う。
- 知的構造解析法に関する研究
各種構造物（免震・制振構造物、海洋構造物を含む）について、構造形態の最適化手法の開発や、弾塑性及び非線形解析を行う。
- 地盤・建物の地震時挙動に関する研究
地震波入力による地盤・建物の振動実験及び地震応答解析とその解析法の開発を行う。
- 空間構造（シェル・立体構造）に関する研究
立体トラスシェル構造の部材座屈及び局部座屈を含めた実験及び解析を行う。
- 構造材料に関する研究
コンクリート及び鋼材に関する実験と解析を行う。
- 建築における情報技術利用に関する研究
情報技術利用に関する資料収集を行い、その応用を試みる。
- その他
各自の希望テーマを面談の上決定し、それに沿って研究を行う。

千葉正裕 教授〔論文〕

- 建物の近似振動解析法に関する研究
- 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
- 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
- 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
- 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
- 各種構造解析プログラムの開発

浅里和茂 准教授〔論文〕

- 鋼構造部材の簡易型継手の開発に関する研究
- 鋼構造建築物の耐震診断手法に関する研究
- 鋼構造建築物の生産管理に関する研究
- 鉄筋コンクリート建物の耐震診断に関する研究
- 有限要素法による弾塑性解析法に関する研究
- 構造メディア教材の開発に関する研究

野内英治 専任講師〔論文〕

- 空間構造に関する研究
- 個別要素法を利用した歩行者の動線シミュレーションに関する研究
- 構造物の崩壊解析に関する研究
- 各種プログラミング言語を用いた構造解析ソフトウェアの開発

- 地盤と建物の相互作用に関する研究
- 耐震設計法に関する調査・研究
- その他に希望する研究テーマがあれば相談の上で応じます。

■材料

出村克宣 教授〔論文〕

- 繊維補強ポラスコンクリートの開発
- 屋上緑化用軽量ポラスコンクリートの開発
- 竹補強セメントモルタルの開発
- 型枠兼用多機能断熱パネルとそれを用いた施工システムの開発
- 亜鉛スラグのコンクリート用骨材としての有効利用
- コンクリートのひび割れ制御技術の開発
- 住宅の断熱改修システムの開発

パリーク サンジェイ 専任講師〔論文〕

- 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた柱・梁接合部に関する実験・解析
- R C構造物の耐震補強に関する実験・解析
- 簡易剛性試験装置を用いた各種コンクリートの応力度－ひずみ度特性および破壊解析
- 建築用内装材・外装材の防火性能
- 自己修復型（インテリジェント）コンクリート
- 防せい剤による鉄筋コンクリート構造物耐久性改善
- インド歴史的石造建造物・インド住宅の調査研究

計画・環境系

■建築計画・設計

若井正一 教授〔論文・設計〕

〔論文〕

- 人間の行動特性からみた安全性や快適性の研究
- 人体動作寸法の生活スペースへの応用研究
- 人間の感覚尺度に関する人間工学的研究
- 各種建築物のインテリア構成方法に関する研究
- 建築・インテリアの設計方法に関する研究
- 建築・インテリア関連の資格職能に関する研究
- その他（新規課題は、相談に応じます）

〔設計〕

- 意外性のある空間の提案
- その他（学内外のコンペ課題を含む）

私たちの生活場面の中には、いまだに解決すべき多様な問題が隠されています。〔論文〕・〔設計〕ともに自ら興味を持つテーマを探し出し、自分が夢中になれる「面白い」課題を構築して下さい。テーマの内容によっては、共同研究を認めます。また、学内外の設計コンペなどに挑戦して、自分の力試しをすることをお勧めします。なお、建築やインテリア関連の資格取得や学位取得を目指して進学を考えている諸君にも対応しています。

松井 壽 則 准教授〔論文・設計〕

〔論文〕

〔住居系〕キーワードとして：住宅，集合住宅，ケア住宅，住宅地，住環境など

- 1) 住宅改修・改造（リフォーム）に関する研究
- 2) 公営集合住宅に関する調査研究
- 3) 住宅団地の再生並びに更新に関する調査研究

〔施設系〕キーワードとして：高齢者施設，保育所・幼稚園，学校，生涯学習施設など

- 1) 通所型在宅サービス提供施設に関する調査研究
- 2) 特別養護老人ホーム・介護型老人保健施設の計画に関する研究
- 3) 保育園・幼稚園の計画に関する研究
- 4) 特殊学級，養護学校に関する調査研究

〔地域系その他〕キーワードとして：ネットワーク，圏域，参加，BFD，UD，視認など

- 1) 安積開墾の耕地と宅地に関する調査研究
- 2) 児童・生徒に対する建築教育の可能性に関する実践研究

〔設計〕上記テーマに関する設計

希望者は，2年次，3年次設計課題をそれぞれ1作品，計2作品を持参し，設計の内容についての意見交換をおこない，選考の参考とします。また，先方の都合により調査を行なうことになるので，講義に追われずに済むよう，できるだけ必要な単位は3年次生で修得しておいて下さい。

市岡 綾 子 専任講師〔論文・設計〕

1. 居住空間，住環境に関する研究
2. 学校施設，学習環境に関する研究
3. 生活空間における居場所形成に関する研究
4. 子どもの環境行動に関する研究
5. 空間イメージ・空間認知に関する研究
6. 廃校施設等の地域施設に関する研究
7. その他，まちづくりなど

浦部 智 義 専任講師〔論文・設計〕

〔論文〕住宅・集合住宅の住空間から，学校などの文教施設，病院などの医療施設，劇場・コンサートホール・ミュージアム・図書館などの文化施設などの各種施設，更に都市景観に至るまで，建築・都市空間において人が受ける心理・行動と建築空間との関係性を研究します。

- 1) 各種施設の建築計画・建築空間に関する研究
- 2) 居住空間の建築計画に関する研究
- 3) 環境的側面から見た，建築・都市空間や施設計画のあり方に関する研究
- 4) その他（応相談）

〔設計〕設計に関しては，何らかの説得力のある提案を求めます。柔軟な発想を身につけることとプレゼンテーション能力を高めることを主題としますが，基本的に図面・模型の作成が苦でない学生を歓迎します。

■都市計画・設計**三浦 金 作 教授**〔論文・設計〕

〔論文〕

1. 広場の研究
2. 経路探索の研究
3. 街路景観の研究
4. 都市公園の研究
5. オープン・スペースの研究
6. 都市景観の研究

7. 西欧都市構造の研究

8. その他の研究

〔設計〕

都市デザイン・まちづくり・建築設計

都市計画研究室（都市・環境デザイン）の研究キーワードは，「都市デザイン」「環境デザイン」「サステナブルコミュニティ」「ロハス」「アメニティ」です。〔論文〕〔設計〕とも，「元気のいい人」「協調性のある人」「目的意識が明確な人」「ねばり強い人」「語学が好きな人」など大歓迎。研究内容の説明を受けてください。

土方 吉 雄 准教授〔論文・設計〕

1. 都市の土地利用に関する研究

- 1) 土地利用の更新過程
- 2) 用途地域制
- 3) 中心市街地
- 4) 都市マスタープラン

2. 住宅・居住環境整備に関する研究

- 1) 都心居住
- 2) 環境共生住宅地
- 3) 子どもの遊び環境
- 4) 居住地の防犯設計
- 5) 住宅マスタープラン・HOPE計画
- 6) 街並み景観ワークショップ
- 7) 近代化遺産とまちづくり
- 8) 市街地整備事業の評価手法
- 9) 住宅需給

3. 都市設計・まちづくり・建築設計

■建築史**狩野 勝 重 教授**〔論文・設計〕

1. 近世社寺建築の調査と研究
2. 東北地方における棟札調査
3. 文化的資産を活用した環境整備計画
4. 日本的都市のアイデンティティについて
5. 地籍図の語る史的意味合
6. 自立型環境共生集落の形勢プロジェクト
7. その他，町づくりなど

〔設計〕設計については，論文の延長上に位置付ける

■環境工学・建築設備**濱田 幸 雄 教授**〔論文〕

1. 中山間地における伝送周波数特性に関する研究
2. 6chマイクロホンの開発とその応用に関する研究
3. 建具の遮音性能測定における内部音源法の適用に関する実験的検討
4. 変動騒音の評価方法に関する研究
5. サウンドスケープに関する研究

八町 雅 康 専任講師〔論文〕

1. LANDSATデータ利用に関する研究
2. AMeDASデータのデータベース化に関する研究
3. ネット気象台の管理と可視化に関する研究
4. 設備用デジタル教材の開発
5. 設備施工現場に関する調査研究

プログラム開発に関する希望があれば，相談の上，受け入れます。

教養講座講演会報告

「わかりやすい建築の話」 (伊東豊雄氏) を聴講して

M1 鈴木 大

平成19年度第一回教養講座は、5月10日に70号館7011, 7012, 7013教室にて、建築学科を中心とした参加学生800人が聴講する中、伊東豊雄氏による「わかりやすい建築の話」と題して開かれた。

建築を学び始めた一年生にとっても大変わかりやすく、実際の建築作品を交えての伊東氏の熱い語りかけに聴講者はみな感動していた。

本稿では、今回の講演内容である「20世紀の建築と生成する格子」「せんだいメディアテーク」「台中メトロポリタンオペラハウス」についてレポート報告する。

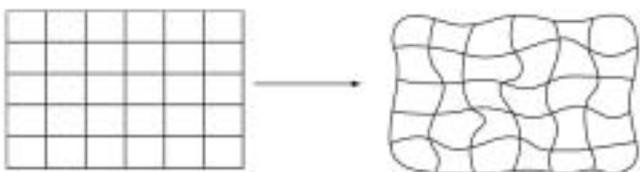
「20世紀の建築と生成する格子」

20世紀のモダニズム建築は、均質なグリッドで構成されており、合理性と抽象性のもとに多様性をそぎ落としてきた。その結果、建築と周辺環境との関係性は希薄になっていき、建築がそこ（敷地）にあるという「場所性」が失われていった。

そこで伊東氏の建築理念は、均質なグリッドを歪ませた「生成する格子（エマージング・グリッド）」という概念を用いて建築を構成することで、建築を自然のシステムへと近づけ、規則的で無機質な空間から複雑で有機的な空間へとシフトさせるというものであった。

私は今まで、エマージング・グリッドをはじめとする「アルゴリズム」というものを理解していなかった。いくら形態をつくるルールを構築したとしても最後に決めるのは自分であり、アルゴリズムを用いたからといって自分の考えることを超えることはできないと考えていたからだ。エマージング・グリッドにおいても同様に、均質なグリッドによって縛られないためにグリッドを歪ませたとしても、それが固定化されてしまえば縛られていることに変わりはなく、どのみちルーティンだと考えていた。

しかし、聴講して感じたことは単にルールに「任せて」建築をつくるというのではなく、相当数のスタディを積み重ねることでルールを「成立させている」ということであり奥深さを感じた。今までは雑誌や実際に竣工した後の作品でしか見ていなかったため、華やかな部分しか知ることはなかったが、その影には本当に地道な努力の積み重ねがあるということを知ることができた。



エマージンググリッドのイメージ

「せんだいメディアテーク」

前面道路である定禅寺通りに大きなケヤキ並木があり、そこにチューブとしての構造体が立つ。建築の意味合いとして敷地内に木を立て、その中に床を張り建築化するというものであった。また、チューブは構造体でありながら光や空気の通り道にもなっており、スラブが光によって支えられていると感じることのできる建築である。

私はこれまで何度かこの作品を実際に見てきて感じていたことであるが、話を伺って構造の捉え方に節度と魅力があると改めて強く感じた。すなわち、単純な物質としての構造ではなく、構造が力をもっており、フラットなスラブにチューブが付加価値を与え、そこに佇む人の目を惹きつけて止まない。そういった魅力があるからこそ、市民に愛される建築であるのだと思う。



※ 筆者撮影

「台中メトロポリタンオペラハウス」

均質な二枚のグリッドを歪ませ、互い違いにし三次元曲面で連続させることで、内部空間に洞窟の連続体のような場所性を生まれさせ、人々の感覚をもう一度身体に近づけるといったものであった。

私はこの建築をみると、「物体」ではなく「生物」であるように感じる。生々しいほどの生命力にあふれ、人々の複雑で豊かな活動を受容することのできる非常におおらかな空間であり、メディアテークと同様に構造がはっきりと意味をもっている建築であると感じた。

今回の講演を通して、伊東氏の建築家として、人間としての一面に接する事ができ、有意義な機会であった。また、熱の入った講演をみて、伊東氏は単に頭の中で考えた事を表現するのではなく、自分の身体の中からやりたいと感じる事を表現しているのだと感じた。アルゴリズムを用いるなど論理的だが、本当にやりたい事をやっている部分が垣間見え、そこに伊東氏の「建築が好きだ」という人間性を見た気がした。

約1.5時間の講演時間も短く感じるような熱気に包まれて、伊東豊雄氏の教養講座は夕日の迫る4時すぎに圧倒的な充実感の中で終了した。

新任の先生

助手 日比野 巧

所属：構造系（倉田研究室）



私は、平成11年3月に本学部建築学科を卒業し、平成13年3月に同大学院博士前期課程、平成18年3月に同大学院博士後期課程を修了しました。その後は、本学部のポスト・ドクターとして1年間お世話になりました。この4月から、助手として勤務することになり、構造力学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ演習、建築情報処理演習Ⅲ・Ⅴ、建築構造実験のお手伝いをしていますので顔を見かけた人も多いと思います。

11年間という学生時代の大半を千葉先生の下で学び、建物の振動解析について勉強させて頂くとともに、実験や卒業研究生の指導のお手伝いを通して、多くの後輩たちと接する機会に恵まれました。

生まれは、神奈川県東部の小田原市です。海にも山にも近く、アウトドア・スポーツが好きです。最近になって、ウェイクボードという、ボードの上に立ちボートやジェットスキーに引張られながら水面を滑るスポーツを始めましたが、思うように体がついて行きません。

これからは、学生の皆さんと共に、教育・研究・スポーツに励みたいと思います。私自身まだまだ学びの途中ですが、精一杯がんばりますので、よろしくお願いいたします。

非常勤講師 田中 雅美

担当科目：建設設計演習Ⅲ



学生諸君へ！

こんにちは、今年度から3年生の建築設計の課題を担当することになりました田中雅美です。これから設計課題を通して建築や都市について考え、計画し、そして表現するために君たちとともに頑張ろうと胸をわくわくさせています。

諸君は建築学科の学生として本校で4年間を通じ建築を学び、建築を知っていかなくてはなりません。端的に言って「建築を知る」とは人類の無数の先人たちが築きあげてきた建築の持つ価値や意味、そしてそれが人々に与える影響や深い感銘を感じ取って、それに近づくために一人一人が勉強し考え努力することだと思います。大学から与えられる講義や課題を受動的にこなすだけでは建築に近づくことは難しいでしょう。自らの意思を持って一つ一つの課題を全力でぶつかって、階段を一歩一歩上っていくしかありません。私は諸君の先輩として出来る限りサポートします。登り道は苦しいことばかりかもしれませんが、いつか気がつけばこれまでとは違った地平が見えてくるはずです。建築学科の学生であることが「誇り」と思えるようになってください。そして建築のフィールドの中で社会に貢献できる人材に育っていくことを切に願っています。

非常勤講師 境 孝

担当科目：建築施工Ⅰ、Ⅱ



日本大学大学院工学研究科（倉田研究室）を修了後、(株)熊谷組に24年間勤務し平成15年に独立致しました。

(株)熊谷組在職中は現場施工を中心に福島第2原子力発電所、宮城学院キャンパスプロジェクト、住友生命S S30プロジェクトに携わってまいりました。大学の先輩である倉田教授から鹿島建設(株)東北支店倉持副支店長と共に教鞭に立つ機会を与えられ、建設業界の取り巻く社会環境が厳しい中において、微力ながら後輩の指導に力を注ぎたいと考えております。

現在は、仙台を中心に建築コンサルタント、CMr（コンストラクション・マネージャー）を主たる業務とし技術的な中立性を保ちつつ、発注者の立場に立って、設計の検討、工事発注方式の検討、工程管理、品質管理、コスト管理など各種マネジメント業務を行っております。ふるさと金沢に位置する北陸大学薬学部施設コンサルタントに参加させて頂いています。「建築施工」は、社会人になってからの施工経験が大きく左右する講義であり、一級建築士の資格取得に向けた知識を身に付けていただきたいと思います。

非常勤講師 山添 英順

担当科目：建築設計演習Ⅲ



2007年4月より3年生対象の「建築設計演習Ⅲ」を担当しております。

約15年振りに戻ってきた日大のキャンパスや当時所属しておりました研究室を懐かしく思っております。

私は、このキャンパスを修士まで6年間過ごし、1年間、他大学で勉強し、東京の設計事務所で約6年働き、現在、地元で父の自営の建築設計事務所でも働いております。

いざ、大学を卒業し、社会に出て、この業界で働いたからこそ、大学時代の勉強は、こうしておくべきだったかな…という自分なりの反省をしております。

いまさら後悔してもしょうがないので、今どうすべきかを前向きに考えたいと思っておりますが、今の現役の大学生の皆さんには、そのあたりを伝えていきたいと思っております。

当科目によるポイントは、楽しく設計作業をしてもらい、そのプロセス等を学んで頂くことと、自分の思いをどれだけ表現できるかのテクニックを磨くことなのかなと私なりに考えています。

学生の熱意は十分に伝わってきます。とても素直な学生が多いなと感じています。その反面、素晴らしい考えを持っているのに、その表現の仕方がまだ上手じゃないなあとも感じております。

諸先生、講師陣の方々と比較すれば、まだまだ未熟な私ではございますが、逆に私だからできることを全面に押し出していく所存です。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

ネットワークOB & OG ⑮ / 新任紹介



OBが勧める建築施工の「いろは」 —物作りの楽しさや感動を学生達に解ってもらうために—

鹿島建設株式会社 東北支店 副支店長

／非常勤講師 倉持 幸由

この度、4月1日から、これまで小栗先生がご担当されてきた日本大学工学部建築学科の「建設施工Ⅰ、Ⅱ」を、境先生と一緒に非常勤講師として担当することになりました。

私は、当工学部建築学科のOB（昭和47年卒）ですが、現在は、鹿島建設株式会社東北支店に勤務（副支店長）しております。これまでの35年間の現場経験や、様々な施工技術などを通して培った建築施工の「いろは」、また物作りの楽しさや感動などを、学生達にぜひ伝えたいと思っております。

私の経歴ですが、昭和47年3月、当学部卒業と共に鹿島建設株式会社に入社。今では、超高層ビルが地震国日本でも当たり前のように建っていますが、当時、日本で初めての超高層ビル「霞ヶ関ビル」の誕生をテーマにした「超高層のあけぼの」という映画を見て建築という物作りに感動しました。これが、鹿島へ入る直接的なきっかけです。

昭和50年には、当社の技術研究所で2年間、スチールファイバーコンクリートや建築材料学などを研修生として学びました。昭和52年には再び仙台の地に戻り、翌年には忘れられない「78宮城県沖地震」に遭遇。この地震の復旧工事で忘れられない思い出は、「仙台火力」と「東北工大5号館」の復旧工事です。

仙台火力の復旧工事では、暑さ52℃（1号機の復旧工事が終わるとすぐボイラーを稼働させたため、この周囲の温度が上昇。ボイラーは全部で3機ありました。）の中で、曲がった鉄骨ブレース（H型鋼）と破断したリベットの交換作業を行いました。10分間の汗まみれの作業と15分間の休憩の繰り返し作業で、体力勝負の非常に厳しい工事でした。

東北工大の5号館の復旧工事では、仮設の山止材（H300）で鉛直方向のみ夫々の柱の付け根を補強しただけで、フロア毎に何本かの柱を同時に解体しました。その際、鉛直荷重で曲がった主筋をターンバックルで強制しながらフープを5cmピッチに溶接し、型枠を組んだ後、新規のコンクリートを打設しました。

その時は夢中で分りませんでしたが、後で冷静に考えれば、余震（水平力がかかれば）が来たらイチコロ（建物倒壊の危険）だったと思うと、背筋が寒くなった記憶があります。

また、外部足場と躯体の僅かな隙間（40cm）から10メートル程度の鉄骨ブレース（H250～H200）を垂直に落とし込み、定着金物に取り付けるという作業を、優秀な鳶とタッグを組み、いとも簡単に行いました。

一方、新築現場では、物作りの基本となる「施工図」を入社3年目から任されました。意匠設計図と構造図から、施工に必要な情報を全て盛り込んでコンクリート寸法図を作成し、自ら型枠大工の世話役とのやり取りを行いました。天井伏図やタイル割図などは、仕上げの施工図の代表ですが、ある材料研究所の工事（昭和49年当時で12億5千万円の工事）では、これらの施工図を早めに完成させることができました。与えられた仕事でやる事が無くなったため、左官の大世話役に弟子入りし、左官工事の「いろは」を教わったこともあります。

こうした経験が、物作りには必要不可欠なことですが、後になって考えてみると、私の場合は、幸いにも若い内にこうした経験を数多くできたことが、その後の自分の人生に大いに役立ったと思っています。

建設業は、昭和54年頃からTQC（全社品質管理）の時代に突入しました。建築施工の中に「統計的手法」を取り入れ、社員

や協力会社は、これに基づき品質管理を行いました。

例えば、冬場のタイル張りの接着強度の管理や、コンクリート床直押えの精度の良し悪しは、この管理手法のやり方に全てがかかっていました。今でも現場で使用されている「QC工程図」は、この時、多くの現場で管理のためのツールとして使われていたものです。

TQCは、建設業ばかりで無く、他の産業でも流行りましたが、時代は変わり、今はISOが常識の世界になっています。

その後、私は、昭和58年に鹿島東北支店の技術課長（代理）になり、さらに、技術課長、工事管理部長と技術の中核部門を経験しました。

これまで色々施工技術を経験した中で、一番大きく変わったのは、施工機械の変遷でしょう。我々が入った頃は、大型のトラッククレーンは殆ど無く、あってもコストが高く使えません。重量のある鉄骨トラスや柱の組み立てに、今では大型のクレーンが簡単に手に入りますが、当時は、いかに小さなクレーンで重量のある鉄骨梁や柱を吊り上げ取り付けるかが、施工担当者のノウハウ（技量）でした。

もう一つの大きな変化は、免震や制震などの新しい技術が、急速に広がったことです。大規模地震の度に、法規も見直されてきましたが、当時はまだ免震や制震などの考え方は無く、耐震設計が主流の時代でした。今では、免震は大型の病院には常識の世界になっています。制震の技術も日々変化しており、こうした技術の変遷には目を見張るものがあります。

一方、平成13年からは、東北6県（新潟の一部を含む）の全ての建築工事を任せられる建築部長という立場で仕事をしました。

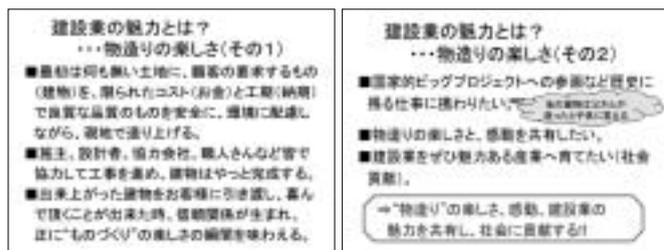
技術課長（代理）時代からトータルで約18年間、施工技術や新技術というものに携わってきたことから、「建築という物作り」に大変興味を持っています。こうした意味で、学生達に施工技術と物作りの観点から、極力分かり易い講義が出来ればと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

【就職セミナーが非常勤講師のきっかけ】

非常勤講師になる直接的なきっかけは、昨年行われた「工学部建築学科就職セミナー」での講演です。ここ数年間、当学部の建築学科から当社へ入ってくる学生が無く、OBとして気をもんでいたところ、この就職セミナーでの講演の案内を受け取りました。

このセミナーで「企業が求める人材と建設業」というタイトルで、物作りの楽しさや建設業のこれからの展望について話をさせていただきました。この時の内容の一部をご紹介します。物作りの持つ意味と、その楽しさ、感動などを理解して貰い、建設業の「3K（きつい、汚い、危険）」に代表される悪いイメージを、ぜひ払拭してもらいたいと思っております（図表参照）。

建設業のイメージ	建設業としてのPR
<ul style="list-style-type: none"> 悪いイメージ・・・即やスコラのイメージになることが多い ■税金問題（いわゆる消費税問題） ■札幌博覧会後（建設業のイメージ） ■東電（・・・原発事故） ■シンドラー（・・・エレベーター） ■統合問題（福島県知事問題、防衛省、名古屋） ■悪いイメージ・・・ほとんど建設業の悪いPRが中心 ■マスコミ、新聞などであまり取り上げられていない ■地域や社会への貢献のPR ■良質な社会資本の整備状況 （電力、エネルギーの確保・ダム、原子力・風力・太陽） 	<ul style="list-style-type: none"> ■一言前（3K（きつい、汚い、危険）の時代） （3Kからの脱却、魅力ある建設業の創出） ■良質な社会資本の整備、PRなどの国家戦略 ■ビッグプロジェクトへの参画と社会貢献 ■自分たちがやってきた実績のPR →やりがいのある、いきいきとした職業 →建設業に関わる全ての人の思い ■豊かな、文化・商業施設、公共施設、住居などの建設を通じ、地域社会へ貢献（2020以降）



建設業は、かつては「3K」と言われ、悪いイメージだけが先行し、またマスコミも、一昨年起こった姉齒問題や、札幌の浅沼二級建築士問題、防衛庁、名古屋などの談合問題などを大々的に取り上げ、建設業界の一部の汚点があたかも建設業界全てに問題があるような過大な報道をしています。我々建設業に携わっている者として、確かに反省すべき点はあるものの、それが建設業界

全体の体質や、考え方（しくみ）であるような過大とも取れる発言がなされることもあり、ある意味での疑問を抱いています。少なくとも、建設業に携わっている大多数の人々は、日々の生活や家庭を守るため、皆夫々真摯に仕事をしており、自分達の作った建物をこよなく愛し、施主や企業者に喜ばれることによって、物作りの楽しさや達成感、充実感などを味わっているのです。

就職セミナーが開催された時、学生達が余りにも「施工」のことや建設業界のことを知らない（例えば、作業員と同じ格好をして、釘袋や、金槌を持って働くこと、そういう姿が施工担当者であると思込んでいた学生もいた）で誤解していたこと、さらに「3K」のイメージをまだ強く持っていることなどが分りました。

せめて、当工学部建築学科のOBとして、これからの建設業界を担っていく学生達には、物作りの楽しさ、建物が出来上がった時の感動などを少しでも解って貰い、これからの自分の進む建設という分野の仕事に携わっていただきたいと思っております。

■(社)日本建築学会東北支部平成19年度役員に、代議員**出村教授**、常議員**市岡講師**が当選された（任期2年間）。

■**浅井准教授**は、2月28日、3月6日、12日、14日、福島県建築士会より依頼され、平成18年度福島県知事指定「建築士のための講習会」講師として、「地震安全性」について講演された。

■**若井教授**は、3月13日、福島県県南建設事務所より平成19年度福島県県南道路計画懇談会委員を委嘱され、会長に推挙された。

■**若井教授**らは、4月2日、日本建築学会より申請した平成19年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題「日本建築学会図書館目録等データベース」が採択された。

■**新入生**（212名）の学外研修が、4月9日および10日の一泊二日で会津芦ノ牧温泉「大川荘」を会場として開催された。**若井教授**を団長に**八町講師**他が引率を担当した。

■**松下院生**（後期・若井研）は、4月10日、第20回コイズミ国際学生照明デザインコンペにおいて国内外の応募作品数一千点を超える中から最終作品（23点）に選考された。

■**若井教授**は、4月11日、私立大学情報教育協会より建築学教育FD/IT活用研究会委員会の委員長を委嘱された。

■**若井教授**は、4月16日、郡山地域テクノポリス推進機構より平成19年度ユニバーサルデザイン製品開発事業選定評価委員会の委員長を委嘱された。

■**土方准教授**は、4月17日、福島県景観アドバイザー派遣事業により、須賀川テクニカルリサーチガーデンにおける高層マンション等建設計画に対する景観アドバイスをを行った。

教室ニュース

■**出村教授**は、(社)日本コンクリート工学協会平成19年度コンクリート診断士講習会の仙台会場（4月18日）及び東京会場（4月27日）において、講師を担当された。

■5月23日、平成19年3月博士前期課程修了の**増井正孝君**（濱田研、現在北陸瓦斯(株)勤務）の論文「主観評価実験による鉄道騒

音の評価方法に関する実験的検討」が、日本騒音制御工学会研究奨励賞を授賞された。

■**濱田教授**は、(社)日本音響学会理事・代議員に就任された（任期は平成19年5月23日より2年間）。

■**市岡講師**は、5月29日、郡山市より、郡山市総合計画審議会委員を委嘱された。

■**出村教授**は、5月30日、産学連携事業として応募した「型枠兼用多機能断熱パネルに関する技術開発」が、国土交通省平成19年度住宅・建築関連先導技術開発助成事業として採択された。

■**根本賢院生**（後期・若井研）は、6月5日、福島県教育委員会より平成19年度理科支援員を委嘱された。

■**土方准教授**は、6月21日、郡山地方広域消防組合より、郡山地方広域消防組合消防力の整備に関する検討委員会委員を委嘱され、委員長に推挙された。

■**人事**：4月1日付で、**日比野巧助手**が赴任し、**千葉正裕・濱田幸雄**の両名が教授に昇格された。**長澤泰大学院非常勤講師**は、4月1日付で工学院大学教授に就任された。

■日本建築学会東北支部研究報告会

（日時：平成19年6月9～10日 会場：岩手県県民情報交流センター アイーナ）

- ・教室用机・いすの周囲に必要な動作スペースに関する計測 ○根本 賢, 若井 正一
- ・街並み構成材料の地域特性に関する調査研究 ○田綿 貴文, 岩崎 博
- ーその19 主要中心業務42地区の外壁仕上材料「性能価値」の採用傾向と地区間類似性ー
- ・屋上緑化のための軽量ポーラスコンクリートの開発 ○菊地 弘悦, 藤井 知明, 齋藤 俊克, 出村 克宣
- ー圧縮性状ー
- ・屋上緑化のための軽量ポーラスコンクリートの開発 ○藤井 知明, 菊地 弘悦, 齋藤 俊克, 出村 克宣
- ー曲げ性状及び耐衝撃性ー ○齋藤 俊克, 出村 克宣, 寒河江賢伍
- ・ピニロン繊維補強ポーラスコンクリートの圧縮及び曲げ強度性状 ○寒河江賢伍, 齋藤 俊克, 出村 克宣
- ・ピニロン繊維補強ポーラスコンクリートの乾湿繰返し抵抗性 ○出村 克宣, 佐々木一人, 飯田 良一
- ・無機系止水材の性能試験 ○杉山 和隆, 倉田 光春, ガン・ブントラ
- ・多自由度系振動方程式の縮小法に関する基礎的研究 ○柳川 雅嘉, 倉田 光春, ガン・ブントラ
- ・数値積分法に関する基礎的研究 ○渡邊 要介, 倉田 光春, ガン・ブントラ, 篠崎 賢司
- ・壁の解析に関する基礎的研究
- ・高強度材料を用いたRC造柱・梁接合部に関する実験（5） ○鈴木 裕介, Sanjay Pareek, 倉田 光春
- ー接合部斜補強筋の定着長さによる検討ー ○鈴木 裕介, Sanjay Pareek, 倉田 光春
- ・ポリマーセメントペーストを用いたCFストランドシート補強RC梁の曲げ・せん断補強効果に関する研究

建築学教室教職員名簿

平成19年4月1日 現在

■専任教員

教授	狩倉千出	野田葉村	勝光正	重春裕	日応構	本用造	建力力	築材料	史学学	9号館	3階	311室	(956-8749)
教授	濱三若	田浦井	正克幸	宣雄作	建建建	築築築	環環環	境境境	学学学	16号館	2階	204室	(956-8732)
教授	浅土	里方	金正和	一茂雄	都イ	ンテリ	アデザ	イ	画画画	16号館	2階	205室	(956-8733)
教授	松市	井岡	S. G.	則子	都工	市学	計分	析画	画画画	9号館	1階	114室	(956-8740)
講師	浦野	内町	壽綾	義治	工住	宅築	計計	画画画	画画画	16号館	3階	310室	(956-8752)
講師	八野	S. N.	英雅	康典	鉄筋	コク	リト	構	画画画	45号館	2階	207室	(956-8753)
講師	S. N.	パー	正典	巧	建建建	築築築	築築	実	画画画	16号館	3階	301室	(956-8750)
講師	渡日	比野	巧	巧	建建建	築築	築	基礎	画画画	16号館	1階	106室	(956-8734)
講師	日比	野	巧	巧	構	造	造	力	画画画	45号館	3階	304室	(956-8742)
講師									画画画	16号館	2階	206室	(956-8732)
講師									画画画	45号館	2階	205室	(956-8751)
講師									画画画	45号館	3階	305室	(956-8746)
講師									画画画	9号館	3階	309室	(956-8743)
講師									画画画	16号館	2階	207室	(956-8744)
講師									画画画	16号館	3階	311室	(956-8741)
講師									画画画	9号館	1階	102室	(956-8747)
講師									画画画	9号館	1階	112室	(956-8731)
講師									画画画	16号館	2階	204室	(956-8732)

■大学院・兼任教員・非常勤講師

教授	根本神	上杉	彰勝	生三彦	地建	域計	画学	特論	論論	45号館	2階	207室	(956-8753)
教授	近藤	藤倉	典洋	介司	建建	築用	数数	特論	論論	45号館	2階	207室	(956-8753)
講師	熊黒	高橋	浩鷹	志泰	構設	造設	計特	別演	習習	16号館	2階	204室	(956-8732)
講師	高長	村島	光彦	男雄	人環	問環	境学	特論	論論	45号館	2階	204室	(956-8732)
講師	中福	古松	徹文	敏夫	建建	築計	画学	特論	論論	45号館	3階	301室	(956-8750)
講師	古松	本浦	敏夫	伸伯	建建	築意	匠学	特論	論論	45号館	3階	301室	(956-8750)
講師	三湯	本	敏夫	伸伯	構造	工学	特論	論論	論論	16号館	2階	204室	(956-8732)
講師					空問	デザ	イン	学特	論論	45号館	3階	301室	(956-8750)
講師					空問	デザ	イン	学特	論論	45号館	3階	301室	(956-8750)
講師					空問	デザ	イン	学特	論論	45号館	2階	207室	(956-8753)
講師					空問	デザ	イン	学特	論論	45号館	3階	301室	(956-8750)

■学部・非常勤講師

講師	東阿	部	秀直	音人	建建	築設	計演	習計	習計	45号館	2階	207室	(956-8753)
講師	上原	西原	茂幸	由男	建建	築設	計演	習計	習計	45号館	3階	304室	(956-8742)
講師	倉近	持藤	幸道	孝男	建建	築設	計演	習計	習計	45号館	2階	207室	(956-8753)
講師	境久	間宏	次子	美実	建建	築設	計演	習計	習計	9号館	3階	311室	(956-8749)
講師	佐藤	田中	雅	寛惠	建建	築設	計演	習計	習計	16号館	3階	309室	(956-8730)
講師	島田	中尾	雅	寛惠	建建	築設	計演	習計	習計	16号館	3階	309室	(956-8730)
講師	田中	本	睦一	仁朗	建建	築設	計演	習計	習計	45号館	2階	205室	(956-8751)
講師	早原	草澤	睦一	仁朗	建建	築設	計演	習計	習計	16号館	3階	309室	(956-8730)
講師	原平	野田	幸子	人夫	建建	築設	計演	習計	習計	45号館	2階	205室	(956-8751)
講師	藤水	野谷	正秀	順生	建建	築設	計演	習計	習計	16号館	2階	204室	(956-8732)
講師	堀田	田	秀英	順生	建建	築設	計演	習計	習計	45号館	2階	204室	(956-8732)
講師	陽山	添部	和	順生	建建	築設	計演	習計	習計	45号館	3階	301室	(956-8750)
講師	山渡	渡	和	順生	建建	築設	計演	習計	習計	45号館	2階	205室	(956-8751)
講師					建	築	設	計	演	45号館	2階	205室	(956-8751)
講師					建	築	設	計	演	45号館	2階	205室	(956-8751)
講師					建	築	設	計	演	45号館	3階	301室	(956-8750)
講師					建	築	設	計	演	45号館	2階	205室	(956-8751)
講師					建	築	設	計	演	45号館	2階	205室	(956-8751)
講師					建	築	設	計	演	45号館	3階	301室	(956-8750)
講師					建	築	設	計	演	45号館	3階	301室	(956-8750)
講師					建	築	設	計	演	16号館	3階	309室	(956-8730)

■事務職員

教室事務	小林まゆみ	建築学科センター			16号館	3階	309室	(956-8730)
------	-------	----------	--	--	------	----	------	------------